ぎんれい 76

新型コロナウィルスと登山

古 川 進 一

昨年、中国から発生した新型コロナウィルスによる肺の疾患のため、世界各地で多数の死亡者が出ています。

こんなに医学が発達した世の中なのにとても考えられないことです。

日本でも毎日、感染者の数が発表され新型コロナウィルスの恐怖にさらされています。

新型コロナウィルスのために経済は停滞し、いろいろな処に影響を与えています。

私達が愛する山も同じです。

今年は日本を代表する富士山も例外でなく、山小屋も全て閉鎖し、登山を禁止しました。

日本各地の多くの山小屋も小屋利用者を制限しています。今年の山はとても静かなことでしょう。

来年は新型コロナウィルスに効果のある薬・ワクチンが開発され、そして新型コロナウィルスが消滅し、安心して山行が出来る様に祈っています。

目　　次

○　巻 頭 言

新型コロナウィルスと登山	古 川 進 一	1

○　山行報告

キノコ山行（明神ヶ岳）	佐久間美智子	4
御坂山（忘年山行）	高 橋　忠	6
伊予ヶ岳	宮 崎　睦	8
瑞牆山	佐 藤　實	10
庵滝・備前楯山	宮 崎　睦	12
会津たかつえ、スノーシューで	内 田 章 子	15
西大巓スノーシュー山行	鈴木 喜久枝	17
大平山	高 橋　忠	18
大日杉	遠 藤 博 昭	21
平標山	高橋 恵美子	23
夏山合宿（一切経山）	竹内 美穂子	25
天元台	金 井 秀 明	28
天狗岳（北八ヶ岳）	佐 藤 健 一	29
秋・八方尾根	内 田 章 子	30
八海山	佐 藤 健 一	32
石裂山	原 田 裕 之	34
浅草岳	高橋 恵美子	35

○　赤石岳の印象　古 川 進 一　37

○　過去の登山語りはネタ切れか。タラ・レバの山　小山田 泰幸　38

○　ミヤマ or タカネ　金 井 秀 明　40

○　表紙のことば　金 井 秀 明　41

○　新人紹介　41

○　令和二年度役員　41

○　ふみあと　42

○　編集後記　44

キノコ山行（明神ケ岳）

佐久間 美智子

日　　程　令和元年１０月３１日～１１月２日

パーティ　遠藤、佐藤(實)、高橋(忠)、高橋(恵)、内田、佐久間

１０月３１日　道の駅「あいづ湯川会津坂下」でテントと車中泊。

１１月１日　登山口に「明神ケ岳山道及び近隣で熊の目撃情報が相次いでいる」という立て看板。前年は熊出没注意だったが、今年は熊の目撃があったと書かれている。この山の中に、見えないけどいるんだ……クマったなぁ、怖い。

７：４０　黄色く紅葉の始まっている山に入って行く。

昨年キノコを見つけた木やその周辺を見るが、あまり出ていない。

私は見つけるのが下手で、いつも誰かが見つけたキノコを一緒にとらせてもらう。次は見つけようと目をこらして歩くのだが、見つけられない。

袋がいっぱいにならないまま狭間峠に着いてしまった。昨年はここにたくさんのキノコをデポしたのにと思うと残念。

伊佐須美神社奥院を経て山頂を目指す。約２０分あまりの急登。１，０７４ｍの山頂は落葉がきれいに積もっていた。高い木々があるので、見渡す限りの展望とはいかないが、皆、思い思いの方向に座り、餅入り懐中最中を食べて、ゆっくりティータイム。

再びキノコを捜しながら下りる。ムキタケ、ナメコの他に今回は紫しめじをとる。他のキノコは木に生えているが、このキノコは地面に生えている。色は食べ頃のあけびと同じ藤紫色で、大きさはしめじより大きく肉厚の感じ。この色のせいで不思議な魅力と気品を漂わせる。

１３：４５　登山口到着。約６時間のキノコ山行。何ごともなく良かった。

今日の宿泊は沼澤湖湖畔バンガロー。キノコの下処理をし、早戸温泉つるの湯で

入浴。

夕食はムキタケの鍋、バター炒め、なめこの大根おろし、そして焼鳥も。ちょこっと食べた紫しめじの味は普通。

「乾杯」とグラスをあわせ「いただきまーす」当然皆笑顔。外は風が出てきたようだが、バンガローの中はあったか。『ただ風が吹いているだけ』(by 遠藤）の静かな湖畔の夜。

１１月２日

朝バンガローの周辺を散歩したり、写真を撮ったり、湖畔をながめながらコーヒーと、穏やかでぜいたくな時間を過ごす

昨年に続き、二度目の明神ケ岳でのキノコ山行。

見つけた時のワクワク感とお料理を充分楽しんだ。

ひとつ欲を言えば、熊のいない山でキノコをとりたい！

柳津町の只見川を望む高台に建つ、福満虚空蔵菩薩圓蔵寺（ふくまんこくぞうぼさつえんぞうじ）を見学し、帰路につく。安全運転ありがとうございました。

御坂山　（忘年山行）

高 橋　忠

日　　程　令和元年１２月５～６日

パーテイ　遠藤、高橋(恵)、佐藤(實)、内田、竹内、高橋(忠)

朝 ５：３０ 小見川を出発。朝焼けで赤く染まった富士山を眺めながら、圏央道・中央道を進む。途中、狭山ＰＡで朝食を取り、一宮御坂ＩＣで降り御坂道を通って、９：５２ 天下茶屋に到着する。道路脇に車を停め、茶屋前から雄大な富士山と河口湖が眼下に広がる。しばらくその景色に見とれ、写真に収めて、すぐ側の登山口から御坂山へと１０：１９出発。

天下茶屋から

出発してすぐに太宰治文学碑、そこでも富士山を眺める。途中にもビュースポットがあり、また木々の間から見え隠れする富士山を眺めながら登っていくと足取りも軽くなるような気がする。

鉄塔から

１１:４６ 御坂山山頂に到着する。山頂は余り見晴らしが良くなくて、最初の予定ではこの先、鉄塔のある場所が見晴らしの良い場所だというのでそこまで行く予定だったが、山頂からちょっと急な下りになっていたので、私と遠藤さんがザックを置いて偵察に向かう。１０分くらいで鞍部に建っている鉄塔が見え、そこから視界が開けて素晴らしい眺め。すぐに引き返して皆を鉄塔まで誘う。そこで皆思い思いに写真撮影、しばらく景色を堪能した後、登り返しを２０分位かかって再び山頂に戻る。御坂山１，５９６ｍ　全員で記念撮影。

１３：３６ 下山開始。

登山口到着 １４：４６。

御坂山山頂

天下茶屋から河口湖畔の宿泊先「若水荘」到着 １５：３２。ゆったりとお風呂に浸かり、夕食、部屋に戻って二次会で盛り上がる。１年を振り返って反省会？です。２３時頃には就寝。

翌朝、７時前に佐藤さん、遠藤さん、恵美子さんの４人で朝の散歩に出かける。河口湖沿いに歩き、大池公園まで。公園の出島のような出っ張りの部分から目前に富士山が迫ってくる。山手の方を見れば、昨日登った御坂山、鞍部の鉄塔、黒岳が良く見える。宿に戻り、８：００朝食。

河口湖から

９：０６ 宿出発。今日の予定は精進湖のパノラマ台。精進湖畔パノラマ台登山口前に車を停め、９：５４ 出発。ここも見え隠れする富士山を眺めながらで、 １１：２３ パノラマ台（1，３００m）に到着。パノラマ台と言うだけあって、平らなちょっとした広場になっている。正面間近に富士山が見え、下に街並み、右手に本栖湖・竜ヶ岳。左手に三方分山などとても眺めが良い。充分富士山を堪能した後、１３：０８ 登山口駐車場に到着。この後、本栖湖に行き、逆さ富士を見ようとしたが残念ながら見られなかった。開運の湯で汗を流して、帰路につく。富士山を満喫した二日間であった。

パノラマ台から

本栖湖から

伊予ヶ岳

宮 崎　睦

日　　程　令和２年１月１０日

パーティ　遠藤、高橋(恵)、鈴木、竹内、宮崎

７時に匝瑳市役所駐車場に集合し、横芝光ＩＣから鋸南保田ＩＣまで有料道路で行きましたが、鋸南保田ＩＣに近づくに連れて、昨年の台風１５号の被害からの復旧が終わらないブルーシートで覆われた屋根が数多くなって来ました。

行程が短時間の山行のため、をくずれ水仙郷で水仙を鑑賞しましたが、今年は例年より開花が遅く、四分から五分咲きでした。

道路脇の水仙をのんびりと愛でながら歩くのは楽です。

をくずれから工事のため水抜きして、湖底の見える佐久間ダム湖畔を通って、登山口の平群天神社脇の駐車場へと到着。

平日ですが、すでに４台位駐車しており、登り口や展望台、山頂でも登山者と会い、冬の房州の山は眺望も良く人気が高い様です。

登山道の一部は、台風により崩れている所も有りましたが、問題なく通過でき、倒木も歩行に支障が無い様に除去されており、展望台までは整備された一般の登山道でした。

展望台で小休止と眺望を楽しみ、その先は、残置ロープが有る登山道が、南峰まで続いていましたが、特に登るのが難しい所はありませんでした。

南峰でお茶を飲んでから、北峰へと行くと、南峰の切れ落ちた山頂が良く見えますので、北峰まで行くことをお勧めします。

南峰に戻り、往路を引き返して平群天神社に到着する。

下山後は、道の駅「ふらり富浦」と「保田小学校」に寄りましたが、「保田小学校」の旧体育館の物品販売所は、台風の被害から復旧していないため、閉鎖中で他の所で販売していました。

年初めの、ゆる登山でしたが、近頃は体力も低下し、バランスも悪くなって来ましたので、この様な山行が自分には最適になってきました。

平群天神社	１０：３５
展望台	１１：２０
山頂（南峰）	１１：４０～１３：００（この間に北峰へ行く）
平群天神社	１３：５０

瑞 牆 山

佐 藤　實

日　　程　令和２年１月２０～２１日

パーティ　高橋（恵）、鈴木、佐藤（實）

久しぶりに、冬のワンディハイクに出掛けて来ました。

須玉ＩＣから黒森経由で、みずがき山荘方面に向う。小川山林道入口近くから雪道に変り、冬タイヤのブレーキテスト、これはＯＫで程なく山荘前に着いた。駐車場は更に奥にあり広く整備されていたが、トイレの無い事が難点に思われました。

定数３名の車中泊は結構快適で朝になり、おにぎり朝食から身支度へとすすむ。いい天気なれど風は１月、着る物で迷い結局、冬のフル装備で出掛けたのが、後々迄響く事になりました。

カラマツ林を少しトラバースして夏道通りに富士見小屋に向う。岩がゴロゴロの上に少し雪が乗り、アイゼンも不向きな歩きにくい道の途中、瑞牆山が絵ハガキの様に見えるカメラスポットに出る。更に樹林帯を進み、キャンプ場からの道と合せて、富士見平小屋到着です。

のぼりが２・３本立ち、テント泊の人や金峰山系の人が数人いました。好印象な形容詞付きのテント場と、予約制の美味しい食事がある小屋として本に紹介されていたのを思い出す。かつての寄るのも憚られる暗い小屋のイメージは消えて、今風なイイネの小屋に変っていました。

休憩後、アイゼン着用で歩き出す。がしかし、岩や根っこを乗越し進むにはオーバーズボンの足が上がらず、アイゼンと岩が大ゲンカの有様です。

天鳥川を渡ると桃太郎岩なる奇岩があり、ここからが登り本番。右側は沢状、ハシゴやスラブ状に雪のついたアイスミックスの道は、すこぶる始末が悪い。又アイゼンを着けて、幾度も岩に引っかけながらガチャガチャ登る羽目になった。

高橋さんと鈴木さんは、何の事無げに歩を進めるあたりが流石に思えるのであり、先行をお願いしてマイペースで一歩一歩の世界に入る。

大岩の間はどこがルートかパズルのようでもあり、２人のトレースを見ながら大ヤスリ岩の下に辿り着く。見上げる空が青く、まぶしい。

黒森からの道と合せ、頂上直下を巻きぎみに進み山頂に到着です。

さすが、百名山。金峰、富士山から鳳凰三山、駒と仙丈、白根に八ヶ岳。懐しい青春の山との再会となりました。

貸切りの山頂でも、そうそう長居も出来ず下山開始とする。せめて後10ｃｍ雪が着いていれば楽なのにと思いながら、順調に下り駐車場に帰って来ました。

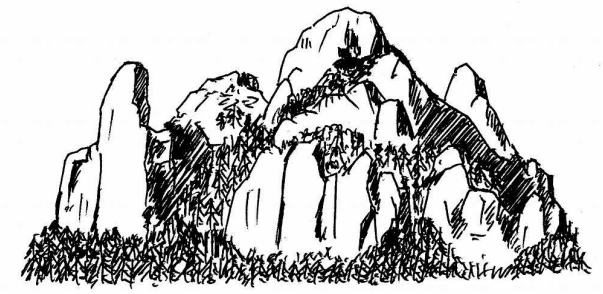
韮崎に出る道すがら、ナビに導かれた道は、高原ロード（？）と言うか、甲斐駒が

手に届く（古い）程の近さに見えて、もう一度ドライブで来たい道、発見となりました。

　帰りに寄った武田乃郷　白山温泉はノーベル賞の大村先生がオーナーとの事で、少し有難みのある、良い温泉でした。

休日の少ない昔、定番だった夜行日帰り山行は、24 時間が充実した１日になる。

いいものです。



庵滝・備前楯山

宮 崎　睦

日　　程　令和２年２月８～１０日
パーティ　宮崎、他１名

９日

今年の冬は暖冬で積雪も少ないため、イロハ坂や中禅寺湖周辺の道路に凍結箇所も無くスムーズに赤沼茶屋に到着する。

日曜日のため、先着の１５台位の駐車車両があり、準備をしていると、その後も増えてきました。

気温は－１２度で、強風が音を立てて吹き木々も揺れており、寒い歩き出しです。

戦場ヶ原も積雪は少なく登山道は踏み固められているので、ホームセンターで購

入した、スパイク付きゴムを靴に装着し歩き出す。

小田代ヶ原までは、樹林が多く、風が直接当たることは無く、歩き出すにつれて、体も暖まり、それほど寒くは感じませんでした。

天候は晴れてはいる様ですが、強風のため地吹雪状態になっているので、男体山などの山々の眺望は良くありません。

小田代ヶ原の東屋で休憩し、凍結した舗装道路の林道もスパイクが有るので滑ることも無く、弓張峠の登山口に到着し、そこからは６本爪の軽アイゼンを装着して歩き始める。

登山者が多いので、ルートは迷うことも無く、踏み固められているので、苦労せ

ずに歩けるが、やはり登りなのでペースはゆっくりで、途中で１回の休息を入れて、庵滝に到着する。

右岸の氷壁では、アイスクライミングのトップロープを設定していたが、氷壁の内部は完全に凍結していなくて、アイススクリュウの効かないためであろうか、トップロープの支点は５箇所取っていました。

左岸の滝も下部まで凍結はしていますが、内側は凍結しておらず水が流れています。

山レコによると、今年は暖冬のため昨年と比べると規模は小さいとの事ですが、十分に見ごたえは有りました。

雲竜渓谷やスッカン沢と比較すればスケールは小さいですが、今年は暖冬のため、庵滝よりも標高の低い所にある、雲竜渓谷やスッカン沢は余り凍結していないそうです。

最近は人気ルートになってきた様で、大勢の登山者で賑わっており、滝の裏側ま

で行って写真を撮った後に、混雑を避け少し離れた所で、お茶を飲みながら昼食を食べた後に反転し、小田代ヶ原で休息をし、赤沼茶屋に到着した。

１０日

足尾の舟石峠駐車場から登山開始しましたが、他に登山者はおらず静かな歩きで、積雪は無く霜柱が固く凍っている登山道です。

備前楯山々頂までは、１時間の登りで到着すると、日光連山、足尾の山々や松木沢の眺望が楽しめる山頂でした。

復路の舟石峠手前でトレールランの登山者が１名登ってきただけで、駐車場で休憩をしていると、その方が下山してこられ、休むことなく足尾市街へと走って行きました

やしおの湯で入浴し、１４時過ぎに出発するが、Ｒ１１９線も渋滞が無く、小見川には１７時過ぎに到着した。

９日

赤沼茶屋	８：１５
小田代ヶ原	９：１０～９：３０
休息	１０：２５～１０：４０
庵滝	１１：０５～１２：０５
小田代ヶ原	１３：０５～１３：２０
赤沼茶屋	１４：０５

１０日

舟石峠	８：４５
備前楯山	９：４５～１０：３５
舟石峠	１１：２０

会津たかつえ、スノーシューで

内 田 章 子

日　　程　令和２年２月２０～２１日
パーティ　遠藤、宮崎、高橋(忠)　(ゲレンデスキー)
内田　(スノーシュー)

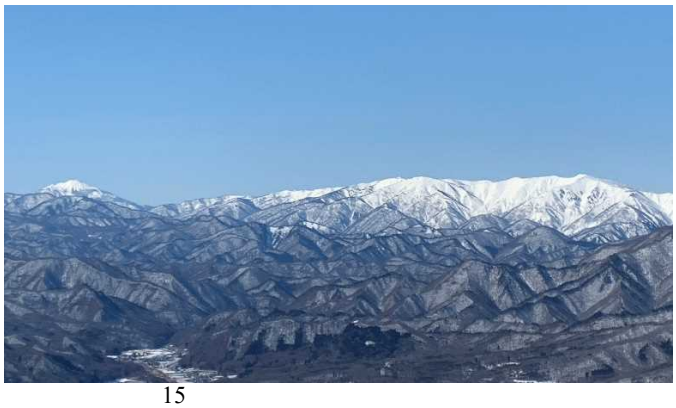
スノーシューのツアーもあるから、と聞いていたので、毎年たかつえスキー場に行く人達について、初めて行ってみることにした。今年は雪不足であちらこちらのスキー場が困っているニュースが入ってくるが、たかつえスキー場も例外ではないらしい。

紹介されたガイドさんと４，５日前から連絡を取り合う。ツアーの申し込みは２人以上だが１人で、を受けてもらう。初めてのガイド付き山行がマンツーマンとは。ゲレンデは何とか滑れる状態でも山は小枝や笹が出てしまい、スノーシューで歩ける状態ではなく申し込みはみんな断っているとのこと。

小見川、早朝発。高杖に着くやおなじみの民宿「平成」へ直行。着替えをしてスキー場へ。ここでスキー組の３人と別れ、レストハウスでガイドさんと会い、打ち合わせをする。

当日の朝の状況でとのことだったが、案の定、山でのスノーシュー歩きは出来ず、ゴルフ場歩きを提案される。雪の上をスノーシューで歩けさえしたら良いと、思っていたのでお願いすることにし、ガイドさんの車で、ゴルフ場に向かう。

たかつえカントリークラブのクラブハウスでスノーシューに履きかえる。山スキーに行く人達にスノーシューで、ついて行くようになって３足目の新調したてである。ガイドさんも同じＭＳＲ製のスノーシューで親近感がわく。　コースに出て目の前の景色に息を呑む。広～いコースは芝生の上に積もった雪が真っ白な絹の布を広げたように滑らかで、歩いて跡をつけるのがもったいないような気がする程。遠く雪原の先には雪を被った燧ヶ岳等尾瀬の山々を望み、所々に見かける可愛い動物の足跡しかない雪上を歩く爽快感は



何ともいえない。ガイドさんといろいろな話しをしながら、雪の上に大きく字を書いたり、雪が少し溶けた所にあった「ケムリダケ」をつまんで煙を出して遊んだり。知識豊富なガイドさんから山のこと、木、花、尾瀬の地層のことなど、教えていただく。ゴルフで言うと何ホール歩いたのだろう。適度にアップダウンもあり、ゴルフ場のスノーシュー歩きは楽しく、いつの間にか時間が過ぎていった。スキー場に戻り、レストハウスでコーヒーをご馳走になり、民宿まで送っていただく。あいにくスマホの電池切れでスキー組の３人と連絡がつかなくなり、心配をかけてしまった。

親戚の家に泊まりに来たような気さくな民宿で、初めて熊汁を食べる。さばき方、調理の仕方がいいのか、臭みなどまるで無く、とても美味しかった。

翌日は、午前中スキーをする３人とまた別行動で、スキー場の近くの「森の遊歩道」なる中で、１人スノーシュー歩きを満喫する。今度は山でのスノーシュー歩きが出来るといいけど。

西大巓スノーシュー山行

鈴 木 喜久枝

日　　程　令和２年３月１２～１４日

パーティ　宮崎、高橋(恵)、竹内、鈴木

去年銀嶺山岳会に入会した一番の理由は雪の山に行きたかったから。

その為にはスノーシューは必須アイテムだ。今までは縁が無いものだと思っていたので、スポーツショップに行っても覗いた事も無かった。雪が来る前に準備しておかなければ・・と強く思ってしまって、会の先輩方に色々話を聞いた。そして、買ったピカピカのスノーシュー。なのに今年は雪が少なく、なかなか機会が無い！

３月に入って宮崎さんが西大巓を計画してくれた。待ってました!!　よろしくお願いいたします。竹内さんもスノーシューデビューだ。一緒に頑張ろうね！

２１日朝、グランデコゴンドラ山頂駅からスタート。天気は快晴、後ろには雪をかぶった大きな磐梯山。宮崎さんに履き方から教わって明るい斜面を登って行く。巾のあるスノーシューがぶつからない様に注意しながら、足を開きぎみに歩かなければならない。広いスキー場はまだいいけど、樹林の中に入ると左右のスノーシューがぶつかったり、乗り上げたりして苦労の連続。疲れた、疲れた、と独り言を言って何度もプチ休憩。そのたびに後ろを振り返って、磐梯山に励まされ、癒しをもらいます。頂上に近づくにつれて傾斜も増してきた。そんな時は踵を上げる機能（ヒールリフターというらしい）を使うと楽だと言うが、一本の太い針金に踵を乗せるだけなのでとても不安だ。踵が浮いていると思っただけで怖くて使う気にならない。慣れれば楽なのだろうか？

大汗をかきながら、やっとの事で登頂。ちょっと風が強く、雲も多くなってきたが裏磐梯の山々や麓の湖が見渡せて素晴らしい眺めだ。表現力の乏しい私がいつも思う事だが“本当に来てよかった”と。

頂上に着いた途端にスノーシューを脱ぎ捨てるように外してしまったので、履いて記念写真を撮り損ねてしまった。いま思えば、また履いて撮ればよかったんでしょうけど、相当疲れてたんですね、なぜか思いつかなかった。

帰りはアイゼンで快適に山頂駅まで下山。その後、宮崎さんはデポしてあったスキーで後ろ姿もカッコ良く下まで滑っていって、私達を迎えてくれた。

翌日は小雨の中、傘をさして五色沼を散策。例年だったらスノーシューハイクの恰好の場所らしいけど本当に雪の少ない年でした。スノーシューは思っていたより取り扱いが大変でした。ピカピカのスノーシューはキズだらけで私の奮闘そのもの。次回はもうちょっとうまく歩けるかも？　恵美子さんの予約してくれたコテージでの夜の語らいも楽しく、充実したスノーシュー山行でした。お世話になりました。

太 平 山(おおひらさん)

高 橋　忠

日　　程　令和２年４月２日

パーテイ　宮崎、竹内、高橋(忠)

４年前の同じ時期、宮崎さん、遠藤さんと私の３人で登った栃木県の太平山へ出かけた。今回は宮崎さん、竹内さんと私の３人。前回は古賀志の孝子桜祭りを見てから行ったのだが、今年はコロナの影響で祭りが中止になってしまったので直接太平山へと向かう。朝 ６：００に小見川を出発。桜満開、太平山遊覧道路の両脇に植えられている４０００本の桜のトンネルを抜けて太平山神社下の大曲駐車場に、８：１１ 到着。８：２８駐車場を出発し、随神門からの石段を三光鳥居、勅使門とくぐり太平山神社に８：３６到着。境内から筑波山がよく見える。また大きなしだれ桜も満開でとてもきれいだ。お参りを済ませ、本殿横にある登山口から、８：４０太平山に向けて出発。出発して７分ほどで太平山神社奥宮に着く。さらに１０分ほどで冨士浅間神社、神社裏の太平山山頂(341m)に到着する。無線中継所(9:12)――ぐみの木峠(9:15)――駒形石(9:40)――太平山パラグライダー場(9:52)を経て、晃石神社・晃石山(てるいしさん、411.9m)に、１０：０２ 到着。山には山桜が咲き、なかなか景色も良い。前回来たときの記憶では、なだらかな縦走で楽だと思ったが、結構急なアップダウンがあり、ハードだ。やはり高齢者の４年の歳月は体力の低下が著しいと、つくづく感じる次第である。

太平山山頂

晃石山山頂

晃石山から更に、青入山(あおいりさん、389.5m)を経由(１０：２８)、急な下り坂を下って桜峠に １２：４３ 到着。名前の通り大きな桜の木のある峠だ。ここか

青入山山頂

桜峠

らまた急な登りで、１１：３２ 馬不入山(うまいらずさん、345m)に到着。山頂からちょっと下ったところから、日光の山々がよく見渡せる。

桜峠まで戻り(１２：４２)、ここから分岐を右に下っていく。急な下りを降りて道路に出る(１３：０１)。約１０分程歩くと清水寺(せいすいじ)という花のお寺に到着する。この寺の駐車場からは、晃石山の山桜、通称 桜峠万本桜がよく見える。また寺の境内は沢山の桜が競い合って咲いている。とても見事だ。この寺は山の中腹にあり、東国花の百花寺に指定されており、蝋梅でも有名である。

馬不入山山頂

清水寺からは舗道を歩いて大中寺に向かいます。道路脇にはあじさいの苗がずっと植えられており、あじさいロードになるようです。太平山神社の長い石段は、アジサイでも有名です。大中寺には、１３：５７ 到着した。

晃石山・桜峠

大中寺

大中寺には、七不思議伝説がある。雨月物語の青頭巾に出てくる「根無し藤」、油坂、枕返しの間、不断の竈、馬首の井戸、開かずの雪隠、東山の一口拍子木。この七つの内、根無し藤だけはまだ見たことがない。

大中寺の横から急な斜面を登っていくと、あずま家という食堂に出る。謙信平より少し上に位置するのだが、ここの展望台もなかなか見晴らしが良い。このあずま家から、太平神社へと石段を登って行き、途中から随神門へと降りて行く。大曲駐車場には、１４：５８ 到着。太平山遊覧道路はこの時期一方通行になっているので、来た時とは逆に謙信平の方を回って、一路帰途につく。

大 日 杉

遠 藤 博 昭

日　　程　令和２年６月２３～２６日

パーテイ　高橋(忠)、内田、遠藤

今年も梅雨の合間を縫って栗子の滑谷沢に行くことになった。前年行った時、二つ小屋トンネルまで車で入れる様子だったので、内田さんも参加する事になった。

２３日２０時小見川を出発、磐越道の三春PAで仮眠を取る。

２４日　朝起きてみるとあまり天気良くない。磐越から東北道福島飯坂インターを降りる頃は雨が降ってきた。コンビニで朝食を取りながら様子を見ていたがやみそうもない。予報では今日、明日位は晴れそうだったのだが、取りあえず二つ小屋トンネルまで行って見ようと言うことになり、車でトライする。例年なら両側の草刈りも手入れされているのだが、今年は人の手が入っていない。ゆっくり慎重に登り１０分位で着いてしまった。歩いて来たら１時間かかるのに、車は早い。雨はやみそうになく無理して行ってテンバに着いても焚き火が出来なかったらつまらないと言うことになり予定変。大日杉へ行くことにする。こんな時に融通が利くのがいい。内田さんはここへ来るのは初めてなのでトンネルの出口周辺まで散策する。車に戻り登ってきた林道を慎重に下る。国道に出る所に猿の群れがいた、この国道も高速道路が出来た為交通量が少なくなったからなのかな。栗子トンネルを抜け米沢に向かう。米沢へ入ったら天気が良くなってきた。上杉神社を見学して、市内のスーパーで水などを買い出し大日杉へ向かう。途中にさくらんぼ農園があり立ち寄ってみる。売りに出すのを仕分けしていて、形の悪いさくらんぼが入ったのが一袋あり、千円でいいよというのでそれを買う。三人で食べきれるのかと思うくらい入っている。大日杉へは昼前に着いた。荷物を運んで整理し、小屋前のベンチでそうめんを食べてのんびりする。

午後になって釣りに出かけるが、内田さんは小屋の周りで楽しんでいるという事で、二人で出かける。いつもの上流のポイントまで行けるか少し気になったが、意外に早く着いた。二手に分かれ私はもう少し先のポイントへ行く。竿を出すと早速の当たりがある。ここへ来ると間違いなく釣れる。二匹目も釣れたがその後はあたりがなくなる。下のポイントへ移動し三匹目ゲット、その後もう少し粘るがさっぱりで忠さんと合流する。忠さんも二匹目以降は釣れなくなり諦めていたそうだ。刺

身サイズ一匹とホイル焼きできればいいかと納得し引き上げる。帰る途中に太くて美味しそうなミズがあったので摘んで帰る。小屋に戻って夕食の準備、ほかの泊り客もおらず今夜は貸し切りだ。美味しい酒と魚で盛り上がったのは言うまでもない。

２５日　朝食の準備をしていると登山者がぽつぽつ登っていく。今はやりのトレイルランの格好をした４人組が表れ準備運動をしている。どこまで行くのやら。ゆっくりと朝食を済ませ、私達も出かける準備、今日は内田さんも連れて昨日のポイントまで行く。川を渡渉し山菜道を歩いて下降ポイントに着く。荒れたガレバを慎重に下り川原に出る。ここから少し上流へ行くと右からの支流がありそこが第一のポイント、ここで何としても内田さんに釣ってもらおうと、忠さんに任せる。私はまた昨日のポイントへ行く。早速一匹釣れたがその後はあたりがなくしばらく粘ったが諦めて忠さんと合流、こちらは全然あたりがなく一匹も釣れないでしばらく前に諦めていたようだ。川原でくつろぎ、お湯を沸かし昼食タイム。その後私もトライして見るが全くあたりがなくここでおしまいにする。3時頃小屋に戻る。小屋前のベンチで朝見たトレイルランの人がいたので話しかけてみると、ひたちなか市から来たそうで、意外にも近くの人たちだった。山は本山手前で大きな雪渓が出て来て手前で引き返してきたそうだ。今夜は泊まっていくそうで、二組になりそうだ。酒の肴も少なく寂しい気もするが美味しい酒があれば楽しくやれますか。実は昨日予定より飲んでしまいまして少し物足りなくなってしまいましたが、よその客もいるので早めに切り上げて就寝。

２６日　ひたちなかの４人組が早くから帰り支度をしている。私らが起きてお湯を沸かして朝食の準備をしている頃には、はやばやと帰っていった。朝から雨で登山客も来ない。早く出てもお風呂がやっていないのでのんびり過ごす。あんなにあったさくらんぼも全て食べつくした。荷物の整理と掃除を済ませ、１０時に小屋を後にする。白川荘で風呂に入ろうと立ち寄るが、この状況で土日しかやっていないという事でした。よそを紹介してもらい南陽高畠の方向へ出て、道の駅飯豊の近くのしらさぎ荘に入ってきました。

平 標 山

高 橋 恵美子

日　　程　令和２年７月２９～３１日

パーティ　佐藤(實)、鈴木、高橋(恵)、佐久間

間もなく８月になるというのに、まだ梅雨は空けない。「梅雨の中休み」も無く降り続く雨にうんざり気味。月末２日間、雨マークは出ていないのでどうにかなるだろうとの予測で出かけて来たものの、仮眠から目覚めれば無情にもビシャビシャと音を立てて降る雨。気分は最悪、あ～あ！

仕方がないので観光に切り替える事に話は決まったが、時間が早いので次回のために登山口を下見しようと移動。登山者用駐車場に着いてみると５、６台の県外ナンバーの車があり、山支度をしている人達もいるではないか。空も幾分明るくなってきたし、後から来た人たちも準備している。行けるかも！　と俄然その気になり、雨の中慌てて支度・出発したのでした。

元橋駐車場から松手山経由で頂上、山の家を経て平元新道に下り、駐車場に戻る一周コースをとる。登山道に入ると樹林帯に遮られて、雨も然程ではない。風も無いのでストック代わりに持った傘をさしながら歩く。松手山までは木製階段で、スリップに気を付けながらの急登が続く。頂上まで標高差千以上、頑張りどころだ。

鉄塔を過ぎ、しばらく歩くと周囲の樹々が低くなり頂上方面が見え、松手山に着いた。雨も止み、一段と蒸してきた。後から登って来た同年配と思われる４人の女性達は、少し話をした後元気に出発して行った。我らも頑張らなくちゃ！

松手山を過ぎ、緩やかな道をしばらく歩くと一の肩への急登になり辛いところだが、登山道の両脇は色とりどりの花々であふれている。さすが『花の百名山』。百花繚乱とはこの事か！　シモツケソウ、ハクサンフウロ、ツリガネニンジン、ウツボグサ、キオン、〇〇フキ、ハハコ等々。中でもピンクのシモツケソウが何とも愛らしくあと１週間もしたらピンクの絨毯になるに違いない。凄いねぇ、綺麗だねぇ、と口々に！　カメラを向けても、私の腕では表現する事など出来るはずもないが、それでもしつこくシャッターを押す。６月のハクサンイチゲの群落を見たかったが、ずっと雨々で何となく過ぎてしまい、8 月になるとシモツケソウが身頃になると言う情報を得て、内心かなり期待してやって来たのです。期待を超える花畑に大満足でした。ただ登山道の状態は悪く、砂礫の中に付けられた木製の階段は大部朽ちてしまい、ほとんどは傾いてしまっている。下りだったらかなり難儀しそうだ。

花畑を抜けると笹原の中の緩やかな道が続くが、思いのほか長くダラダラと中々頂上に着かない。道を間違えたのか地図を見てもそんな紛らわしいような道は無く、不安になる。疲れが溜まってきたのか？　前にも後ろにも登山者の姿は見えない。

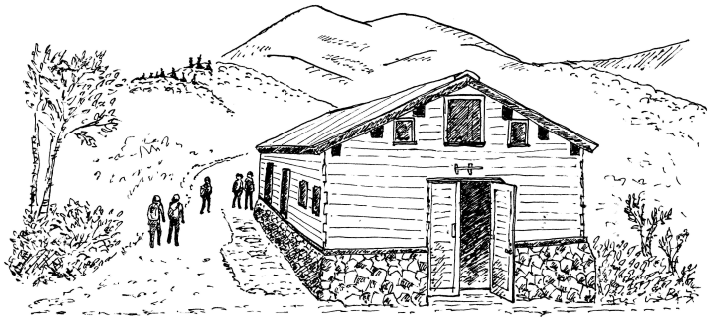
１時半過ぎやっと頂上に到着。広々した頂上にも人影は無く、ちと寂しい。でれでれ歩いているわけではないのに、どうしてこんなに差がついちゃうのだろう？　休憩中に仙ノ倉から上がって来た人達が何組か通り過ぎて行きました。時間があれば仙ノ倉まで足を伸ばしたかったが、そんな余裕はない。

頂上から山の家までは、ほぼ一直線の木製階段だ。木道は楽だけど、単調だし、濡れていたら恐い思いをしなければならない。階段はガスの中に消え山の家も見えないので、果てしなく続いているように感じられてしまう。下を向いたり横を向いたりしながら長～い階段を下る。その昔バス山行で仙ノ倉に向かった時に通った巻道は、今はもう通行止めになっていてどの辺りだか良くわからなかった。途中の小さな湿原に咲くキンコウカの姿に癒される。

山の家の前の冷たい水で喉を潤し、最後の休憩。ここから林道まで又階段が続く。急な箇所はほとんど階段になってしまっているようだ。平元新道入口の水場で靴の汚れを落とし、先を急ぐ。１時間程歩くと車止めのゲートに出た。もう少しだ。途中から案内に従って近道をしたが、意外に長くて林道を進んだ方が早かったのかもしれない。やっと駐車場が見え、ホッとしたのでした。もう、ヨレヨレだ。一休みしたいところだが、宿に入る予定時間が迫っていて忙しなく車に乗り込んだのでした。

宿に着くと既に夕食がはじまっていた。どうにか頼み込んで先に入浴することが出来たが、汗を流すだけで精一杯。ゆっくり温泉を楽しめなかったのがとても心残りでした。美味しい生ビールに酔ったのか、それとも疲れ過ぎたのか、話をする間も無く皆そうそうに寝てしまいました

翌日も軽いハイキングをする予定だったが、疲れてしまって「止めようか！」ってことになり、最近インスタ映えすると話題の清津峡のトンネル見学等して帰路につきました。



夏山合宿（一切経山）

竹 内 美穂子

日　　程　令和２年８月４～７日

パーティ　宮崎、内田、高橋（忠）、竹内

当初の行先は森吉山だが、８月に入っても梅雨明けせず、一切経山と磐梯山に変更する。

８月４日夜、宮崎さんの車で小見川を出発。磐越道三春ＰＡで仮眠。

８月５日　７時１５分、浄土平駐車場に到着。天気は快晴。真夏の朝空に飛行機雲が一筋。目の前の登山口から出発。浄土平湿原木道を歩き始める。少しずつ緩やかな登り。日差しを遮る木々が少ない。真夏の強烈な日差しの洗礼を受け、夏山の厳しさを体感する。登山者はどんどん増えてくる。

８時５６分、鎌沼分岐。酸ヶ平避難小屋を経て、石がゴロゴロで火山らしい登山道に変わる。振り返ると先程通過した分岐と鎌沼がよく見渡せる。きびすを返し、ゴロゴロ道を登ると少しずつガスが出てきた。いったい頂上はどこなんだろう。

少し登りが緩やかになって開けてきた。頂上は平らで、大きな塚のような場所に空気大感謝塔を始め、様々な塔が立っている。先に進み、切れ落ちる手前で五色沼が視界に入ってきた。眼下に広がる、神秘的な色彩の「魔女の瞳」。　こんなご褒美が待っているなんて。大休憩をしつつ目に焼き付ける。

鎌沼分岐まで戻り、酸ヶ平湿原木道を鎌沼へ。まるでガイドブックの写真の中へ迷い込んだような美しい風景。高山植物に迎えられながら歩き、沼のほとりで小休憩。東吾妻山がよく見える。空は時々雲が流れる程度で、晴天が続いている。

姥ヶ原分岐から浄土平駐車場へ戻る。１２時４４分、駐車場に到着。それから裏磐梯休暇村キャンプ場へと向かう。

ところが車中で自分の体調の異変に気づく。いつもと違う汗のかき方。軽度の頭痛、そのうち吐き気。マズイ、マズイ・・・熱中症？　不安で一杯だ。少しずつ症状が治まってきたが、内田さんに、明日の磐梯山は辞退したい旨を話した。その後、皆様の配慮で明日は、イワナ釣りに変更していただく。キャンプ場に到着する頃には、体調も戻ってきた。忠さんから薬や栄養ドリンクをいただき、テントやタープ設営も協力できた。おやつのかんざらしは冷たくて甘くて、私の舌だけでなく心も満たしてくれました。

休暇村で入浴後、夕食作り。皆様から，水分補給が不充分だったのではないか、また服装も風通しの良い半袖の方が良かったのでは。とのアドバイスをいただいた。次回の夏山登山に是非活かしたい。

豊富な食材と持ち寄り品で、何品ものご馳走ができてテーブルに並ぶ。大いに食べて飲む。宮崎さん自家製の枝豆は滋味で、つい手を伸ばしてしまう。お漬物は数種類並んで、私にはこの上ないご馳走だ。

歓談の中で、特に印象的だった話。――レモンは甘い――である。厳しい山行中にかじるレモンは酸っぱいのではなく、甘く感じるそうだ。ザックにレモンを忍ばせて、君もどう？などと話しかけている姿を想像してみた。

８月６日、朝。炊事場にサルが出現。カレーライスの朝食を済ませて、出発する。

今日も晴天。

１０時１８分、箕輪スキー場脇の高森川到着。初めての沢歩き、そしてイワナ釣りだ。昨日とは打って変わって、川音さえも涼感を誘う。ひんやりとした大気が、両岸から伸びた枝葉のドームでとどめられている。別天地である。おぼつかない足取りで沢を歩いて、竿を持たせてもらう。教える方々には恵まれているのに、何の手応えもなく、あえなく竿を置く。

冷たい寒天のおやつ、お昼はそうめんをいただく。天然の冷たさが、いかに心地よいかを思い知らされた。

１５時、イワナ１０匹の釣果で、夕食のメインは決定。そのうち２匹は内田さんの釣果。

１６時、キャンプ場に戻って、一服してから、１７時、ラビスパ裏磐梯へ入浴しに行く。

夕食は、イワナの唐揚げホイル包み焼き、持参した食材を使ったご馳走が、テーブルに並ぶ。頭から尻尾までカリカリの唐揚げ。ホイル包み焼きは、イワナの身がほこほこで美味。今夜も大いに盛り上がる。

８月７日、今日も晴天に恵まれた。旅館の和朝食のような朝ご飯。納豆をかき混ぜていると、眼前を横切る――もしかしてカモシカ？　自然の中で非日常と日常がまぜこぜになって、ちょっと笑い出したくなった。

テント、タープを片付けて、休暇村を後にする。猪苗代でおそばを食し、帰途につく。

初めての夏山合宿に参加して、夏山の気候の厳しさと自己管理の甘さを痛感した。そして何より、計画から後片付けまですべてやっていただいたこと、感謝申し上げます。ありがとうございました。

天 元 台

金 井 秀 明

日　　程　令和２年９月１１～１２日

パーティ　高橋（恵）、鈴木、佐藤（健）、金井

東北有数の美渓と名高い吾妻連峰の大滝沢に行こうと話がまとまり、11 日夜に山形へ向かう。天気予報は曇り時々雨くらいで沢登りには微妙。

夜 12 時前には仮眠場所の峠駅に到着。この駅には列車の車庫跡と思われる巨大な建物があり、車ごと入って悠々と仮眠できる。少々の嵐など気にならないすごい場所だ。健一さんに山形の銘酒をごちそうになって仮眠。

翌朝、電車の音で目をさます。外は雨だ。朝の支度をしていると、駅前の峠の茶屋から名物“峠の力餅”をかかえた売り子さんがやってきた。早朝から電車が到着するたび売りに来るようだ。ひとつ買って味わう。小ぶりな大福が８個入っていて４人で食べるのにちょうどいい。さらにこの駅は山形新幹線が通過する。新幹線の通過をすぐそばで見ることができるのは貴重なので、つい２本も見てしまった。これで出発が遅くなったのは否定できない。

雨が降っているので沢はあきらめ、ハイキングに変更する。米沢方面は天気がいいらしいので天元台へ行くことにする。

山道を下り、国道から米沢方面へ向かう。周囲には花咲くそば畑が広がり気分のいい道だ。白布温泉を抜けて天元台ロープウェイ乗り場に到着。コロナ渦の最中だがけっこう賑わっている。今日は米沢市民の山の日らしい。ロープウェイも無料となっていてとてもラッキー、ついている。

ロープウェイからリフトを３本乗り継ぎ北望台に到着。雲り空で稜線はガスに隠れているが、米沢盆地はよく見えていい眺めだ。ここからようやくハイキングの始まりだ。もう 11 時、西吾妻山まで行くのはとても無理、せいぜい人形石まで周回ルートを行こうと決まる。樹林の急坂をしばらく登ると稜線の湿原に出た。湿原の中の木道を快適に歩いてゆく。やがて湿原からガレ場となりしばらく登ると人形石に到着。大きな岩がいくつも重なっていて、登山者も 10 人くらい休憩している。ガス混じりの強風で寒いが、ひとまず岩陰で昼飯をとる。

ここからは北望台のリフト乗り場へ下るだけだ。下山中の樹林帯にはびっしりとハリブキが密生していた。貴重な山菜なので春に来たらいいだろうなあと思う。リフト一本分を歩いてリンドウの咲くスキー場の斜面をのんびりと下山。

下山後は白布温泉につかり、帰路につく。余裕があれば山形の美味しいものを味わいたかったが遅くなってしまったので仕方ない。大滝沢と山形グルメは来年の課題とします。

天狗岳（北八ヶ岳）

佐 藤 健 一

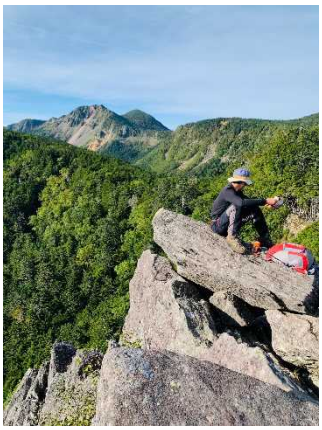
日　　程　令和２年９月２１～２２日
パーティ　佐藤（健）

東天狗岳から西天狗岳を望む

9 月の 4 連休を利用して北八ヶ岳に行ってきました。会社の山仲間が急遽行けなくなり単独になりました。テントを担いで白駒池から入り、黒百合平にテントを張って天狗岳を往復する行程です。前日深夜に白駒池駐車場に到着し翌朝 6:30 出発。

秋空が凛としてすがすがしく、紅葉には早くても気分は上々。高見石小屋を経て中山展望台に出ると槍ヶ岳～穂高連峰の稜線がくっきり。もうひとふんばりし 9:30 頃黒百合平のテン場に到着。テント下に敷くパレットがすでに残り 2 つでしたが運よく確保できました。すぐにテントを張って天狗岳に向かい 11 時過ぎに東天狗岳に到着。眺望良く、また暑くも寒くもない初秋の気候が爽やか。その後、西天狗岳を往復し天狗の奥庭経由で黒百合平に下りました。

違いがわかる男？のコーヒータイム


「にゅう」のてっぺんでコーヒーを飲みながら槍～穂を眺め続ける青年。背景は天狗岳

あとの時間はテン場でのんびりまったりと過ごしました。KALDI で買ったコーヒーミルで豆を挽いてコーヒーを淹れ、餃子の皮にチーズ、ハム、ケチャップ、バジルを挟んで焼いた「カルツォーネ」をつまみに JIM BEAM（バーボン）をちびりちびりと。仕上げはカマンベールチーズを丸々1 個使ったチーズフォンデュで夕食。黒百合平は山あいにあるので眺望は全くありませんが、十分にソロキャンプを満喫しました。

翌日は「にゅう」経由で白駒池に戻りました。「にゅう」はちょっとした岩峰でそこから見た槍ヶ岳～穂高連峰の姿が白駒池を囲む森を前景にとてもきれいでした。紅葉の頃は更に美しいことでしょう。白駒池まで下ると苔むした森がこれまたいい雰囲気を醸し出し、「もののけの森」と称されるのも納得がいきました。

もののけの森

秋・八方尾根

内 田 章 子

日　　程　令和２年１０月８～９日

パーティ　宮崎、遠藤、高橋(忠)、佐藤(實)、竹内、内田

上高地散策は雨模様のため変更。出発も前夜発から当日早朝発になる。一日目はのんびり観光である。リニューアルした小布施の北斎館、長野の善光寺、こちらもリニューアルした東山魁夷美術館を見学する。

今夜はＧｏＴｏキャンペーンに乗って宮崎さんが予約してくれた白馬の旅館泊りである。

翌朝、朝食前の散歩で長野オリンピックのスキージャンプ競技場を見に行く。下から見上げる実物のスタートラインの高さに驚き、圧倒される。そこから滑り、ジャンプする選手は凄いなあ！と、改めて思った。高所恐怖症の私ではスタートラインに立っただけで気絶し兼ねない。実物のジャンプ台を間近に見て、テレビでの競技の見方も変わる気がする。

八方尾根は２１年前（ずいぶん昔だなあ）ゴールデンウイークに高橋さん、土屋さんと３人で唐松岳に登って以来である。ゴンドラ、リフトを乗り継いで、土屋さんのザックにつけたかわいい鯉のぼりを風に泳がせながら雪の尾根を歩いたっけ。いつも思うことだがつらい記憶は忘れているので、白馬岳や連なる山々を眺めながら楽楽に登れたような。

ゴンドラには乗らず、黒菱平まで車で上がる。見上げると赤茶っぽく見える山々は紅葉が進んでいる証拠のようで期待が高まる。黒菱ライン乗り場から紅葉が進む中、リフトを乗り継ぎ、八方池山荘まで辿る。

ゴンドラコースからのリフトは、中学生？高校生？の団体の若い歓声が山々に響く。後で引率の先生から伺った処によると、コロナ禍の影響で修学旅行が出来ず、奈良からここに来たとのこと。いろいろなところに影響が出ていることを改めて知る。

リフトで一気に上がって標高が高くなった分寒く、ニット帽に変える。先を見ると数珠つなぎで続いているのはあの生徒たちか。

八方池山荘からは南斜面を巻いて行くコースを行く。石ゴロの道、または整備された木道だが濡れているので滑りそうで歩きにくい。周りは白いガスに覆われ景色はイマイチである。

八方山ケルン、第２ケルンへと進む。生徒たちは第２ケルンまでのようで、長い行列とすれ違う。今日は八方池までだが、相変わらずガスが切れない。八方池を廻り込んで目の前が池の見晴台まで行ってみる。晴れていたなら池に、逆さ白馬岳の美しい姿が現れる筈だったが、あいにくである。残念！

台風がらみのお天気で、もしかしたら二日間共観光になってしまうかも…と思っていたので「八方尾根を歩けただけよかった」と自分を慰める。

空いていたベンチで、昼食兼お茶タイムの休憩。小雨まじりのガスの中だが、温かいコーヒーが心身共に暖めてくれる。帰りは第２ケルンから登りとは違う尾根コースを下る。

八方山ケルン辺りまで下りて来た時、急にガスが切れてきた。と、突然雲の中から山々が浮かんで来たのだ。本当に突然に。みんな歓声を上げる。五竜岳、鹿島槍。なんて素晴らしい！

すると反対側も雲の中から白馬岳、杓子岳、鑓ヶ岳と白馬三山が姿を現す。一瞬ではあったが、それぞれ急いでカメラに収める。一瞬であったから、なおさら輝きとなって目に焼き付いた。

途端にみんなニコニコ顔。「心がけがいいからだ」だの、あーだ、こーだと。

泊まった宿、白馬「丸金旅館」のご厚意で帰りの入浴もさせていただき、楽しかった山行を終える。

八 海 山

佐 藤 健 一

日　　程　令和２年１０月１０～１１日

パーティ　高橋(恵)、鈴木、金井、佐藤(健)

今秋、吾妻連峰の大滝沢に２回チャレンジしましたが天候に恵まれず結局行けずじまいに。２回目を台風であきらめかけた時、それじゃあ紅葉の山に変更しよう！と意見がまとまりました。週末は台風14号の影響が残りそうでしたが、天気予報では関東から離れた北陸などはそれほど影響がなさそう。まずはYAMAPの「リアルタイム紅葉モニター」で候補地を探し、谷川岳を候補に挙げるもロープウエイが運休とあっては諦めざるを得ず、八海山を目指すことにしました。

10日20時に小見川を出発し0時頃に八海山ロープウエイ駐車場入口に到着。さっそく高橋さんが持ってきたダンロップ６天を張り寝酒を酌み交わす。高畠ワイナリーの赤ワインと地酒八海山でけっこういい気分になったところで就寝。

翌朝は青空が広がり気分が高まる。8:30に朝一番のロープウエイに乗り、まずは女人堂を目指して歩き出しました。私は今回初めてYAMAPの活動記録に挑戦しました。使っている人もいると思いますが、スマホのGPSと時計の機能を使い、登山ルートとコースタイムに加えて撮った写真を連動させて記録するインターネットサービスです。

女人堂にて　お祓い？

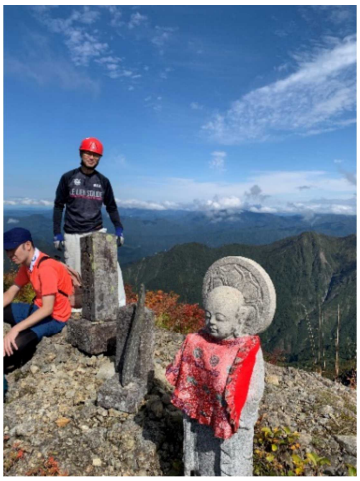
１時間ほどで女人堂に到着。避難小屋が新しく立派でした。小屋の前で休んでいると信仰の山にふさわしく「講」の一団が到着し我々の方に向かって般若心経を唱え始めました。後で写真を見ると、3人が頭を垂れまるでお祓いを受けているかのような・・・・・。

登るにつれて紅葉の色合いが濃くなり、薬師岳中腹の草紅葉の黄色などもきれいです。ガスが湧いたり消えたりの天候でしたが、時折り見える駒ヶ岳の山頂が赤く色づいていました。途中、はしごや鎖場もあるけっこうな急斜面が続き、薬師岳を経て11:30に千本檜小屋に到着しました。

薬師岳から地蔵岳を望む

この頃になるとすっかりガスが晴れて、眼下には稲刈りが済んだ魚沼盆地、その先には米山や弥彦山と角田山、さらに先には日本海

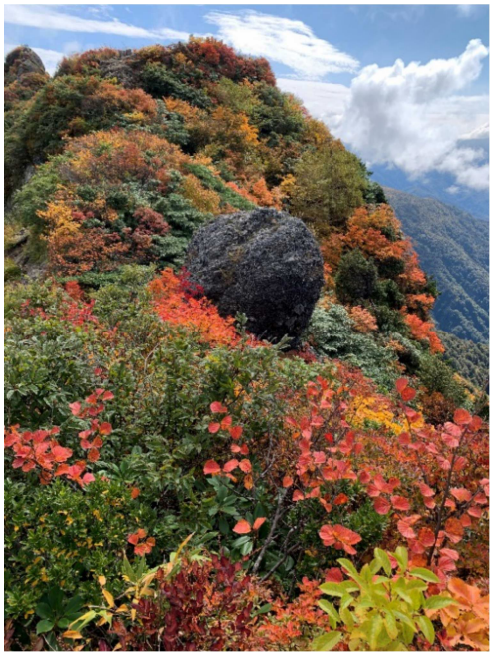
と佐渡ヶ島が遠望できる上天気となりました。頂上部の八ツ峰は岩稜続きのためヘルメットを持参しましたが、時間的余裕と体力を考慮して金井さんと私で八ツ峰の端の地蔵岳だけ登って戻ることにしました。小屋から地蔵岳まではそれほど時間もかからず登頂できました。この日の八海山は地蔵岳の紅葉が一番進んでいて、赤、オレンジ、黄色、緑が色鮮やかで、澄んだ秋空に映えていました。



地蔵岳頂上

その後千本檜小屋に戻って昼食。ここで最近覚えたカマンベールチーズフォンデュを披露。簡単でおいしいです。昼食を終えた頃から山頂部はガスに覆われ始めました。山頂部にガスがかからなかったのは 11 時～14 時頃までと短かかったので、私たちは絶妙なタイミングで紅葉と眺望を楽しむことができたことになります。その後下山を開始し 15 時頃にロープウエイ山頂駅に到着。締めに麓の「魚沼の里」に立ち寄り、新そばと八海山甘酒をいただきました。「魚沼の里」は広大な敷地に酒を醸造する雪室などが点在するいい所です。今回は時間が足りませんでしたが、いつかまたゆっくり来てみたいと思います。

カマンベールチーズフォンデュ



地蔵岳から八ツ峰方面を望む

石 裂 山

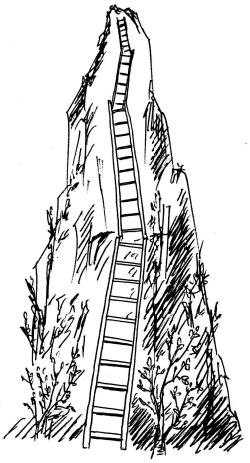
原 田 裕 之

日　　程　令和２年１０月１８日

パーティ　原田

６時５０分、自宅から出発。北関東道で栃木県に入ると目の前に雪をまとった男体山などの日光連山がよく見えた。中でも白根山はきれいに覆われて美しかった。

９時４０分、登山口である鹿沼市の加蘇山神社に到着。駐車場には車は１台もいない。すぐに登山開始。２０分程で休憩所（四阿）を通過したが、あちこちに危険の文字が見られた。石裂山方向と月山方向への二又となり、石裂山へ進んだ。ロープや鎖、梯子が頻繁に出てくる。奥の宮、石裂岩の立て札があり、「破損あり注意」の表示のある梯子を上っていくと岩小屋の中に鳥居と祠があった。登山道を探すが見つからない。下へ向かっての踏み跡があり、下ると巻いていく道があった。紅葉はまだまだで緑が多い。下から話し声が聞こえてきた。尾根に出てしばらく行くと後ろから一人が追い付いてきた。下りになり、長い梯子もあって面倒くさいので先に行ってもらった。
２０m程の梯子を下りるともう姿は見えなかった。そこから約１０分で石裂山の頂上に着いたがあまり視界はよくなかった。そのまま惰性で通過し下っていくが、おかしい。地図を見るとやっぱり間違ってた。戻って改めて月山に向かった。月山はそれなりに天望はきいたが日光連山は雲に遮られて見えない。残念だ。下りは特に難所もなく登山口に到着。駐車場にはほかに２台止まっていた。



浅 草 岳

高 橋 恵美子

日　　程　令和２年１０月２５～２７日

パーティ　佐藤(實)、鈴木、高橋(恵)

浅草岳には過去に3回登っている。いずれも季節は秋、そして福島県側からの入山だ。新潟県側からは登ったことは無い。ところが、佐藤さん曰く「雪の頃に行ったことがあるよ、確か高橋さんもいたと思うよ」と。　えっ！　私ですか？　そんなはずは、勘違いですよ。なので「私は行っていません！」と断言したのです。とは言うものの何かが引っかかる、スッキリしない！　破間川？　五味沢？　聞き覚えがあるような気がする・・・。2日間考えてやっと思い出しました。だいぶ前のGWに、雪に埋もれた破間川の源流部を目指したが叶わず、変更して向かった先が浅草岳ネズモチ平だったのだ。まったく記憶から飛んでいたのでした。山行そのものはもちろん覚えているのですが、そこが浅草岳だったことが記憶に無かったのだ。最近こんな事がときどき有る。登った山を登らない、登った事のない山を登ったと勘違いするんです。これって老人性痴呆？　大丈夫か、私！

そんな訳で新潟県側から入るのは2度目だが、登るのは初めてだ（前回は桜曽根登山口の少し先で引き返しているから)。9時いざ出発。駐車場のトイレの脇から林道を歩くこと１０分程でネズモチ平の登山口に着く。登山道はゴロゴロした石の上に落ち葉が積もり、ぬかるんでいるので歩きづらい。ぐちゃぐちゃだとの書き込みが多く有ったので、迷った末に長靴にしたので、濡れに関しては完璧だ。ただサイズが大きいので、足首がしっかりしないのが不安ではある。

小さな沢を渡ると段々と傾斜もきつくなり、所々出て来るロープを掴みながらの岩場の登りがつらい。「高橋さんが短時間で登れて緩いコースだと言うから！」と鈴木さんは責めるが、コースタイム２時間と言っただけだよ、責められる覚えはありません！　本音を言えば、私ももっと緩やかなコースだと思ってたんだけど。

岩場を抜けても急登は続き、笹原の中のえぐれた道が長くなかなか前岳に着かない。２時間半かけてやっと桜曽根コースとの分岐に着く。左は頂上へ、右は桜曽根。陽に照らされた草紅葉の木道をたどり頂上へ向かう。振り返れば小さな池塘越しに堂々とした守門岳がくっきり。あ～、登山日和！

頂上からの眺めは素晴らしいものでした。燧岳、会津の山々、荒沢岳、毛猛、行ったばかりの八海山、越後駒ヶ岳。そして足下に広がる田子倉湖。紅葉の盛りの只見尾根。駅前の広場も見える。まだ若かりし頃の１１月、田子倉湖から剣が峰経由で頂上を目指したが、降ったばかりの雪に阻まれ辿り着けず、登山道にどうにかこうにかテントを張ってやり過ごしたことがあったが、今となっては良い思い出だ。３人共その

時のメンバーである。

山を下りてゆっくり温泉泊まりのはずが、雨で予定変更したので今日帰らなくてはならない。余り時間的余裕は無いのに、素晴らしい眺めに１時間程休憩。下山は桜曽根コースをとり、周回する。道はこちら側の方が良く整備されているようで、木製の階段の縁には太い釘を８本も使った滑り止めと思われる板が打ち付けてあり、安心感がある。只見沢に切れ込む断崖が迫力満点の鬼が面、崖ぎりぎりに付けられた登山道を歩いている人の姿が確認できるが、アップダウンの連続で時間がかかりそうだ。

嘉平与ボッチまで、目の前に広がる山々を見ながらの木道歩き。とても気持ちの良いコースだ。ボッチの急な下りを終えるとだいぶ緩やかな樹林の道となり、紅葉も鮮やかになって来る。真っ赤に染まった楓やブナに足が止まる。登山道の側にツキヨダケがびっしりと生えていたが、比較的若い樹が多いせいか倒木等も少なく、食べられそうなキノコは見当たらない。

何となく見覚えのある『浅草の鐘』を叩いて、桜曽根登山口の広場に到着。ここからネズモチ平までは林道歩き。前回歩いた時は雪に埋もれて完全に山の斜面の一部になっていたので、こんな舗装された道とは思わなかった。トラバースするのが怖くてドキドキだった記憶が残っている。途中を横切る沢の上部には滝も見え、紅葉がとても美しい。

３時半、無事駐車場に戻る。頂上辺りは終わってしまっていたが中腹や林道沿いのとても綺麗な紅葉と大展望とで、満ち足りた一日となりました。

赤石岳の印象

古 川 進 一

赤石岳へのルートは赤石小屋のある大倉尾根（東海パルプの山でもあり大倉喜八郎・ホテルオークラに関係有り）、荒川三山か荒川小屋を経て登るコース、小渋川から広河原大聖寺平から、そして聖岳から百間洞を通り百間平から頂上へ行くコース等、東西南北から登ることが出来ます。

赤石岳は見る方向によって山の形が全くちがうのです。東面の笊ヶ岳から見ると大倉尾根を真ん中にして大きな手を広げた感じの山です。そして反対側つまり西からですと広々とした百間平の上にどっしりと座った山容です。

聖岳側からですと赤石岳が細く見えます。

一番形がよく見えるのが、私の好みかもしれませんが、荒川三山から見る赤石岳です。

早朝、中岳から見る赤石岳は最高です。深い谷から一気にせり上った山容はとてもスタイル良く見えます。特に早朝の尾根に影が入った時は素晴らしいと思います。あのどっしりとした赤石岳がすっきりした姿で見えるのです。

そして、荒川前岳の下りには南アルプス一番のお花畑が目を楽しませてくれます。北岳の草すべりのお花畑よりも広いでしょう。

赤石山脈といわれる様に日本を代表する大きな山容を誇る山、赤石岳へ是非、会員の皆さん登ってみて下さい。以前より山小屋等も整備され登山口迄のアクセスも良くなり入山しやすくなりました。

古い会員だった菅野君からの電話にて。

今年の６月、予想していなかった菅野君から電話があって私はびっくりしました。

菅野君は銚子に小畑無線（現ＮＴＴ）があった時に銀嶺山岳会に入会していました。

私が山行を共にしたのが、数十年前、夏山での転付峠越のマンノーの登りで荒川三山・赤石岳・聖岳を通って遠山川に下った山行で、良く覚えています。その時のことを菅野君も良く覚えていて、私にその時の思い出を話してくれました。

現在は千葉市の都賀にいるとのことです。とてもなつかしかったです。

過去の登山語りはネタ切れか。タラ・レバの山。

小山田 泰 幸

日　　程　2021＋α

パーティ　未定

現場へ行かないと「妄想」ですら錆びついてしまうのかも。

岩くずばかり足元に続く尾根道などを歩いていると、ああ自分は地球の上にうろちょろ寄生している蚤みたいな存在なんだな（嬉）、などと考え、自分がいるところは地球という場所なんだと再認識することが「ありました」。標高の高いところへ行く機会がなくなってしまって、地球を五感で感じる体験を持てなくなって久しくなります。裏返していうと、山への飢餓感を最近感じなくなったのが寂しい。

山のことをあれこれ書いたら、心の奥で息もたえだえになっている「埋み火のような山への思い」が少しは勢いを取り戻すかもしれない。

思い通りに実現できなかった登山を語ろう……ただし息子の。

息子が小学生の頃、立山・室堂を基点にして、家族であちこちしたことがありました。どうして思いついたのか、ピークではなく、五色ヶ原まで行って幕営し、翌日戻ってきたという気持ち的にぜいたくな山歩きをしたこともその一つ。

で、その時の印象が心の隅にでも残っていたのか、大学生になった息子が、たまたま大学ワンゲル部で室堂から南へ、薬師岳を縦走という計画に参加。

薬師岳とは渋い。北アルプスは南北方向に三列の大きな山脈が並行し、東側から見るといちばん奥に鎮座する、アプローチのめんどうな山。北アなのに長大な尾根筋とカールのえくぼでおしゃれした南アみたいな性格の山。

たしかに、社会人になっちゃうと、行きにくくなりますよね。

息子たちのワンゲル部は、先鋭的な登山はやりません。私が息子たちとやってきた登山と、傾向が似ている。薬師岳――いいじゃない！

でもワンゲル部登山隊は、五色ヶ原で引き返しました。

息子の登山靴の靴底が、はがれたのです。後日、そのことを聞いて、あぜんとしました。たしか買ってあげてまだ４～５年の、ドイツの〇〇という老舗の登山靴メーカーの品だったと記憶しています。（メーカー名の「〇〇」については覚えていますけど、この文を読む人にいらぬ偏見を刷り込むかもしれないので、あえて伏せておきます。）

とにかく、壊れるには早すぎるような気がします。よほど保管のしかたが悪かったのかな。カパンカパンに乾いてしまっていたとか？

五色ヶ原山荘で登山靴を商っている（？）なんて期待できません。心優しい登山隊は、「勇気ある撤退」をしました。

薬師岳は、どうなったか……じゃない、人間の方で、薬師岳をどうしたか、ですね。

２～３年後のこと、息子は卒業・就職してＯＢとなった先輩と語らって、二人で薬師岳縦走に再チャレンジしました。工学部系の学生だったので、遊ぶ時間がふんだんにあるわけではありません。記憶がはっきりしませんが、在学中最後の山行機会だったかもしれません。アプローチは、前回と同じ、室堂起点。

で……。

室堂までは行きましたが、そこまでで帰ってきました。先輩が、体調不良になったのです。またしても、「勇気ある撤退」。せめてもの慰めは、今回は息子が原因ではなかったということだけ。

社会人になった息子は、山に行く余裕が作れないまま、いまはバイクに凝っています。

薬師岳はどうなんだろう？　今の自分に５日あったら、縦走できるかな。いや、６日か、う～んそれ以上。そう考えると、学生のような立場の人しか行けない山かな。体力が下降曲線を描くばかりの私ですが、心にひっかかり続ける山になりました。別に息子のかたきを取るわけではないけれど、心に思い浮かべるだけで、衰えを踏みとどまらせる発奮材料にはなるかな。

かつて高校で山岳部顧問をしていたとき、ある年、部員が剣岳を希望し、夏山合宿登山のような機会でないとチャンスがないと思い、計画。しかし剣沢キャンプ場まで行きながら山頂アタック当日荒天に出くわす不運のため、あきらめました。翌年、こだわりを感じていた下級生が、前年の計画の再挑戦を希望。この年はまたとない好天に恵まれ、めったに行けない剣岳山頂を踏めたのでした。私の経験では、「捲土重来」はわりと現実感のあるものだった。でもそれはたまたま幸運に恵まれていただけだったようです。

ところで、薬師岳といえば、まるでそれらの山脈に守られているかのような、「雲ノ平」のほうが、私は気になります。ピークハントの対象ではありませんが、薬師と同様、そこに至るアプローチがあまりに贅沢な時間を要求するため、いまだに思い浮かべるだけの存在です。山岳部顧問をしていた時代でも、ピークのような目標を示しにくいので、部員生徒に「夏山山行は北アルプスの雲ノ平に行かないか」とは提案できませんでした。自分でそこに立ってみないと具体的な面白さは言えませんが、「高天原」とか、地名だけでもわくわくしてきます。

思い続ける、というのも無意味ではないと思います。

芭蕉の「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」（「旅」・「夢」など現代人が手垢をつけすぎて安っぽく見えるけど）を模倣する路線で。

足萎えて思ひは尾根を馳せめぐる……これでは無季です。「登山」と言い張れば夏だけど。そもそもあまりに露骨な「本歌取り」。……ならば。

山地図を広げて魔法の絨毯ぞ　　→（推敲）→　　山地図は魔法の絨毯尾根に立つ

ミヤマ or タカネ

金 井 秀 明

雑草という名の植物がないように、高山植物にも当然それぞれ名前があります。コマクサ、ツガザクラ、ウサギギク、コケモモ、クルマユリ、キヌガサソウなどは、聞いただけでパッと姿が浮かぶその花にふさわしい名前だなあと思います。

チョウノスケソウやツクモグサのように採集者にちなんだ名前も思いがつまっている感じがあっていいですね。ちなみに植物界の神様、牧野富太郎先生が自分の命名した植物にひとつもマキノとつけていないのも、謙虚な人柄がしのばれると思います。

また、キタダケソウ、ウルップソウ、シコタンソウ、ハヤチネウスユキソウなどのように地名にちなんだ名前もわかりやすく、かつ覚えやすいのでいい名前といえるのではないでしょうか。

そこで、問題はミヤマやタカネです。低地にある植物とほぼ同じ亜種にミヤマやタカネをつけた名前のなんと多いことか。アメリカ人が子供の名前にやたら Jr をつけるみたいな、と言ったら失礼か。低地のものとそっくりならまだ仕方ないけれど、かなり違った色や形のものにはもっとふさわしい名前をつけてあげれば良かったのに、などと考えてしまいます。

なかでも、それが両方あるもの、たとえばシオガマとかツメクサなどは分かり辛い代表です。ミヤマシオガマとタカネシオガマ、ミヤマツメクサとタカネツメクサの見分けはいまだによくできません。困ったもんです。

でも、そんなことを言ってたら、ヘクソカズラやイヌノフグリが自分たちの名前もなんとかしろと主張してくるかもしれません。しかたないことですね。

表紙のことば

金 井 秀 明

飯豊の石転び沢雪渓です。ぎんれいの夏山合宿で行ったことがあるなあ、と思って調べてみたら、平成２年の８月でした。もう 30 年も経つのですね。
日本有数の大雪渓を満喫して稜線に出たと思ったら、夕方から嵐に見舞われ小屋へ逃げ込んだことがなつかしく思い出されます。
じりじりと暑い真夏に、また雪渓を登るような山へ行きたい気持ちを込めて描いてみました。

新 人 紹 介

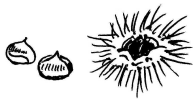
氏　　名　：　竹内 美穂子
職　　業　：　主婦
生年月日　：　昭和 36 年 12 月 5 日
趣　　味　：　ヨガ
登 山 歴　：　２年
行きたい山：　谷川岳
入会の動機：　地元の方々と登山がしたかったから。

令和２年度　役員

会　　長	古 川 進 一	
副 会 長	金 井 秀 明	
事 務 局	金 井 秀 明	
会　　計	内 田 章 子	永 井 陸 夫
庶務連絡	佐 藤 健 一	
装　　備	金 井 秀 明	
会報編集	金 井 秀 明	高 橋　忠　　小 山 田 泰 幸
	内 田 章 子	高 橋 恵 美 子

＊　山崎慎太郎、　高橋充夫さんは退会されました。

ふ み あ と



令和元年

10 月 22～24 日	刈込湖・半月山・・・・・・・・・	宮崎、他１名
29～31 日	湯ノ倉山・・・・・・・・・・・・	宮崎
31～ 2 日	明神ヶ岳（きのこ山行）・・・・	遠藤、高橋恵、佐藤實、内田 高橋忠、佐久間
11 月 26～27 日	中倉山・備前楯山・・・・・・・	宮崎、鈴木、高橋忠
30 日	九鬼山・・・・・・・・・・・・・	高橋恵、他１名
12 月 4 日	大郷戸アルプス・・・・・・・・	宮崎
5～ 6 日	御坂山（忘年山行）・・・・・・	遠藤、高橋恵、佐藤實、内田 高橋忠、竹内
11～12 日	両崖山・・・・・・・・・・・・・	宮崎
21 日	奥久慈男体山・・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、内田、高橋恵 鈴木、高橋忠
24 日	宝篋山・・・・・・・・・・・・・	宮崎

令和２年

1 月 10 日	伊予ヶ岳・・・・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、高橋恵、鈴木 竹内
21 日	瑞牆山・・・・・・・・・・・・・	佐藤實、鈴木、高橋恵
2 月 1 日	釈迦ヶ岳（八海山神社まで）・・	内田、遠藤、宮崎、高橋恵 高橋忠、鈴木、竹内
8～10 日	庵滝・備前楯山・・・・・・・・	宮崎、他１名
3 月 12～14 日	西大巓・五色沼・・・・・・・・	高橋恵、鈴木、竹内、宮崎
22～23 日	尺丈山・小瀬富士・・・・・・・	宮崎
26～27 日	横根山（高萩市）・・・・・・・	宮崎、他１名
4 月 2 日	大平山・・・・・・・・・・・・・	高橋忠、宮崎、竹内
4 日	西大巓・・・・・・・・・・・・・	原田
19 日	奥久慈男体山・・・・・・・・・・	原田
5 月 5 日	神峰山・高鈴山・・・・・・・・	原田
17 日	篭岩・・・・・・・・・・・・・・	原田

21～22 日	井戸湿原・・・・・・・・・・・・	宮崎、他１名
23～26 日	大日杉白川・・・・・・・・・・・	遠藤、内田、高橋忠
24 日	釈迦ヶ岳・鶏頂山・・・・・・・・	原田
30 日	赤薙山・・・・・・・・・・・・・	原田
6 月 17 日	鹿岳、桧沢岳・・・・・・・・・	宮崎、他１名
26～27 日	一切経山・・・・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
7 月 13 日	燧ケ岳（熊沢田代まで）・・・・	宮崎
29～31 日	平標山・・・・・・・・・・・・・	鈴木、佐藤實、佐久間、高橋恵
8 月 4～7 日	一切経山（夏山合宿）・・・・・	宮崎、内田、竹内、高橋忠
24 日	柳沢・玉川渓谷・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
9 月 11～12 日	天元台・・・・・・・・・・・・・	高橋恵、鈴木、佐藤健、金井
21～22 日	北八ッ・天狗岳・・・・・・・・・	佐藤健
23～25 日	大日杉白川・・・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、内田、高橋忠
	地蔵岳・・・・・・・・・・・・・	高橋恵、佐藤實、鈴木、佐久間
10 月 3 日	荒海山・・・・・・・・・・・・・	原田
4～ 5 日	安達太良山・・・・・・・・・・・	鈴木、高橋恵
7～ 9 日	八方尾根・・・・・・・・・・・・	遠藤、宮崎、佐藤實、高橋恵
		内田、佐久間、竹内
11～12 日	八海山・・・・・・・・・・・・・	高橋恵、鈴木、佐藤健、金井
15～16 日	安達太良山・・・・・・・・・・・	宮崎、他
18 日	石裂山・・・・・・・・・・・・・	原田
25～27 日	浅草岳・・・・・・・・・・・・・	佐藤實、鈴木、高橋恵
25～27 日	田代山、銀山平・・・・・・・・・	宮崎
30 日	那須岳・・・・・・・・・・・・・	原田

編　集　後　記

今年はコロナの影響で山行もままならず。
山岳会に入会して１０年目という節目の年なのに、山行も年間１０回程度と寂しい年になりました。来年は、体力に合わせた山行を存分に楽しみたいものです。

高　橋　忠

コロナ禍で窮屈な世の中です。仕事に大きく響いて生活も大変な人々がいるなかで、山に行けるのは幸せなことですね。

金　井　秀　明

いまだに山を続けていられることに、感謝、感謝 です。

内　田　章　子

千葉県はどの山へもアプローチが長く、感染症の時期は大変ですが、みなさんお気をつけて登山を楽しんでください。

小 山 田　泰 幸

年齢的にも体力的にもこれが最後かもしれない。と、計画した沢登りの予定が雨で３度流れました。はたして来年リベンジできるのでしょうか？

高　橋　恵 美 子

銀嶺山岳会ホームページ

「ぎんれい７６号」

発　　行　〒288-0837
千葉県銚子市長塚町３－１４８
銀 嶺 山 岳 会
TEL. 0479(22)7698

http://ginrei288.xsrv.jp/

編　　集　編集委員
発行月日　令和２年１２月９日
印　　刷　フルノライフベスト株式会社